

平成 30 年度 教育事業
青少年教育施設ボランティア養成講座（26 年目）

1 事業概要

愛媛県内から参加した社会人・大学生・高校生が、青少年教育施設ほか様々な地域でボランティア活動を行うための基本的な知識・技術を2日間にわたり実践的に学んだ。室内での講義や演習（アイスブレイク等）、屋外での「ダッチオープン」を用いた野外炊飯の演習を行った。また当施設法人ボランティアが各班のスタッフとして参加し、参加者と密接に関わりながら全ての活動を行った。



2 事業の目的（ねらい）

国立大洲青少年交流の家が主催する教育事業や研修支援等の運営協力・指導補助などを担うボランティア人材を育成するとともに、青少年教育及び人材育成の観点から、地域社会へ貢献しようとする人材の育成を図る。

3 企画・運営のポイント

本年度も既に登録をし、事業の運営補助の経験がある法人ボランティアに班付きスタッフの役割を与え、一部演習や講義を担当させることとした。講義では、大洲地区広域消防事務組合消防署員による普通救命講習や、松山東雲女子大学の柴崎先生によるボランティア活動の意義、当所の職員によるアイスブレイクなど、充実したプログラム構成となるよう企画した。演習ではダッチオープンを使用し、当所の事業における野外炊飯全般の基本的な技能を身に付ける研修とした。広報においては、愛媛県ボランティアネットや愛媛新聞社のボランティア欄に掲載したり、多方面へのチラシの配布に努めた。

4 期待される効果

6つの効果を意識して計画を行った。1つ目に、法人ボランティアが班付きスタッフとして密接に参加者と関わる事で、今後共にボランティア活動を行うために必要な関係性の構築が期待される。2つ目に、ボランティア活動を数多く経験されている大学の講師を招くことで、ボランティア活動の意義、ボランティア活動における心構えや留意点の講義を聞くことができる。3つ目に、豊富な体験活動を経験している企画指導専門職から講義を聞くことで、青少年教育における体験活動について学ぶことができる。4つ目に、演習（アイスブレイク）を事業推進係が担当することで、実践的な経験を得られる。5つ目に、事業で多々使用されるダッチオープンの演習を設け、野外炊飯活動全般の基礎的な技術を習得し、即戦力として育成できる。6つ目に、法人ボランティアが、ボランティア活動を経験した中で感じたことなどを講義で伝えることで、参加者に対しても意識付けを図ることができる。

5 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

6 後 援 愛媛県教育委員会・大洲市教育委員会・愛媛新聞社

7 期 日 平成30年9月22日（土）～23日（日）

8 場 所 国立大洲青少年交流の家

9 対 象 教育支援ボランティア活動に興味・関心のある高校生、大学生、専門学校生
社会人等の青少年（29歳以下）

10 参加人数 23名(募集20名) 内訳：高校生13名・大学生8名・一般2名

11 参加費 3,500円

12 講師 柴崎 あい 氏
(山東雲女子大学・講師 愛媛ボランティア学習研究会・事務局長)
大洲地区広域消防事務組合 消防署員、国立大洲青少年交流の家 職員

13 日 程

	10:00	10:30	11:00	12:00	13:00	16:00	17:00	18:30	20:00	21:00	22:00	22:30
22 日 (土)	受付	開 講 式	ボラン ティア 活動の 技術Ⅰ (アイス ブレイク)	昼食 ・ 休憩	安全 管理 (普通 救命 講習)	青少 年 教育 施設 の現 状と 運 営	夕食 ・ 休憩	青少 年 教 育	入浴 ・ 休 憩	青少 年 教 育 施 設 に お け る ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 Ⅰ	就 寝	
	6:30	9:00	10:30	14:00	15:00	15:30						
23 日 (日)	起 床 つ ど い 朝 食	ボラン ティア 活 動の 意 義	ボラン ティア 活 動の 技 術Ⅱ (野 外 炊 飯)	青少 年 教 育 施 設 に お け る ボ ラ ン テ ィ ア 活 動Ⅱ	閉 講 式	解 散						

14 活動内容

【1日目】

「ボランティア活動の技術Ⅰ(アイスブレイクゲーム)」では、初めて出会う参加者・スタッフ全体の緊張をほぐし、その後の研修効果を促進するための活動を行った。今年度は、グループワークを数多く経験している職員が行った。表情の硬かった参加者も徐々に笑顔が見られ、緊張がほぐれる様子が見えられた。途中には担当職員以外の職員も参加し、交流を深めることができた。ふりかえりでは、アイスブレイクの構成についての説明があり、ゲームの順番、場所や対象者への注意点など、ねらいをもって進めることの大切さを学ぶことができた。また、法人ボランティア自身も指導技術を高めることができた。

「安全管理(普通救命講習)」では、地元の大洲地区広域消防事務組合消防署員から心肺蘇生法やAED(自動体外式除細動器)の使用方法等について学び、一連の工程を身体で習得できるよう、繰り返し反復して行われた。また骨折や裂傷など、野外活動時に起こり得る怪我への対応も学び、ボランティア活動時に必要不可欠な救急法を学ぶことができた。

「青少年教育施設の現状と運営」の講義では、職員から、青少年教育施設とは心身ともに健全な青少年を育成するために作られた教育活動を行う施設であるとの説明があり、青少年教育施設の役割を知ったり、青少年教育施設が実施する活動内容(運営)や成果(教育機能)を理解したりした。その後所内を周り、設備を確認した後、夕べのつどいに参加して他団体との交流を行い、青少年教育施設のもつ機能も体験した。

「青少年教育」では、当所企画指導専門職(清水大輔)が、「御五神島(おいつかみじま)・無人島体験事業」での10日間に及ぶサバイバルキャンプの体験を基に、青少年教育の課題や、発達段階に応じた体験活動の必要性について講義を行った。また、子供への対応についても、「傾聴」という視点から分かりやすい説明が行われた。

「青少年教育施設におけるボランティア活動Ⅰ」では、法人ボランティアが担当する時間も設定した。法人ボランティアそれぞれが、参加者にスライドで写真を提示しながら、ボランティア体験について分かりやすい説明で伝えた。参加者は、法人ボランティアの説明を熱心に聞き、今後、自分自身が活動していくための意欲やイメージを膨らませていた。

【2日目】

「ボランティア活動の意義」では、柴崎氏（松山東雲女子大学・講師）による講義を行った。「自主性」「公共性」「無償制」というボランティア活動の三原則や、「ボランティア基礎力」を知ったり、「寄り添う」と「見守る」の違いを考えたりした。参加者同士で考える場面も多くあり、お互いの意見を話し合いながら、答えを導き出していた。

「ボランティア活動の技術Ⅱ（野外炊飯）」では、ダッチオーブンを使用し「手羽先スタミナ煮込み」と「きのこたっぷりピラフ風炊き込みご飯」を作った。参加者は、火おこしの方法や器具の使い方、オーブンメンテナンス、安全管理を学んだ。演習の中でポテトチップスが固形燃料にもなることを知り、驚く参加者も見られた。

「青少年教育施設におけるボランティア活動Ⅱ」では、法人ボランティアの登録制度について、職員が説明を行った。

15 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

*** 満足 : 74%** *** やや満足 : 26%** *** やや不満 : 0.0%** *** 不満 : 0.0%**

- 今までにたくさんのボランティアの方にお世話になってきて、自分も人の役に立ちたいと思いこの事業に参加しました。ボランティアをする上で大切なことを学ぶことができ、とても充実した時間を送ることができました。
- 青少年についての課題やボランティアの方々の取り組みを知っていけばいくほど、この講座に参加して良かったと思いました。
- 今回の講座はボランティア活動についての話や運営など、興味がないような話だと思いましたが、様々な講座を受けてみて興味がもてました。
- 参加してよかったと心の底から思えるようなことばかりで、これからいろんなボランティアに参加しようと思いました。
- 今回ボランティア養成講座を受けて、ボランティアのなんたるかについて理解することができました。ボランティアをやってみたいなと思いました。

16 事業の成果

参加者23名の中には、ボランティア養成講座後、法人ボランティアとして当施設事業の運営協力や指導補助を行っている者もいる。また、アンケートの参加者の声からも読み取れるが、「当講座に参加して良かった」という意見も多く、満足度のパーセント以上の成果であったと思われる。さらには、12月の自然体験活動指導者養成講座に申し込み、資格を取得しようとする参加者も多いたことから、意欲的に活動に取り組もうとする参加者の姿勢が見受けられた。

17 事業の課題

「ボランティア活動の技術Ⅱ（野外炊飯）」が講座の最終内容であったが、初日に設定すれば、参加者同士の関係作りを進める上でも効果的であったと思われる。また、参加者の中には、カヌー研修や自然とふれあうイベントを行ってほしいといった声もあり、今後は法人ボランティアの育成を図る上で、各種研修会を開催したり、ボランティア自主企画を行ったりするなど、新規登録者が定着し、自信をもってボランティアとして参加できる仕組みを構築することも必要だと感じている。

（担当：企画指導専門職 武藤健太郎）